

- 1 題材名 歌詞と旋律の関わりに注目し、表現を工夫して歌おう
 教材名 表現「メッセージ」(星 梨津子 作詞、佐井孝彰 作曲)

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A 表現 (1)歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
 [共通事項]旋律 強弱

(1)題材観

本題材は、歌詞の内容や曲想を味わい、言葉と旋律との関わりを考えながら曲にふさわしい音楽表現を工夫し歌うことをねらいとしている。

学習指導要領では思いや意図をもって表現する力や、音楽と生活のかかわりに関心をもち生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことを重視している。本校音楽科では「生涯にわたって音楽を楽しむことができる生徒の育成」を研究主題として取り組み、全員でひとつの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、共同する喜びを感じたりする指導を重視しながら進めている。

小学校学習指導要領では、各学年を通じて「音楽を感じ取って歌唱の表現を工夫すること」と示されており、発達段階に即して学年ごとに指導内容が示されている。小学校では、音楽を特徴付けている要素とのかかわりを中心とした題材を用いて、様子を思い浮かべたり、旋律の特徴を感じたり、曲想や詞と音楽を味わうことを目標とし、表現の工夫を指導している。中学校ではそれを踏まえ、歌詞の内容や抑揚から曲想や雰囲気などの表現を工夫する指導をしていくよう発展させていきたい。

本題材は、小学校1年生の「ようすをおもいうかべよう」という学習内容と関連させ、言葉と旋律に焦点を当て、思いや意図をもって表現を工夫させたいと考えている。今回取り上げる教材「メッセージ」は詩情豊かな歌詞であり、語感が旋律に深く反映されているので、思いや意図をもって表現を工夫することができる。また、すべての強弱記号が歌詞の意味・内容や語感と密接に結び付いているため、強弱記号を手がかりにしながら表現方法を考えることができる教材である。共通事項として本題材で使われている強弱記号はすべて小学校で取り扱うものである。楽譜上の3連符やrit.テヌート、全休符は中学校で取り扱う共通事項となっているので活動を通して理解させていきたい。義務教育9年間の一貫性を重視しながら、学習内容を設定した。

(2)生徒の実態(男子17名女子14名 計31名)

本学級の生徒は、元気で活発な生徒が多く、賑やかな雰囲気をもっている。音楽が好きな生徒が多く、よく歌う。合唱に関しては、音をつかむことが得意で、音取りはスムーズに進む。また、他のパートにつられないように音程を正確にとろうとする意識があるため、自分のパートに責任をもってパートの役割を考えながら歌う生徒が多い。強弱記号に関しては、指示をだせば意識して歌うことができるが、自ら楽譜上の記号を頼りに合唱表現を工夫することまではできない。パートリーダーやサブリーダー、CD係、指揮者や伴奏者などの経験者は意識が高く、表現の工夫を考えており、また、それに関して自分の言葉で伝えることができる。読譜に関しては、苦手意識がある生徒が多いが音符をつなげたり、強弱記号をチェック

したりと、視覚的に楽譜に書き込むよう一年生の時から指導している。そのため、音符をたどるまでとはいかないが、多くの生徒が連なる絵のように楽譜を追っていくことはできている。しかし思いや意図を持つまでには至らず、指示通りに歌う生徒が多い。本題材を用いて、生徒自身が自分の考えを持ち、進んで表現を工夫する能力を高めていきたい。

(3)指導観

本時で扱う「メッセージ」は新しく教科書に取り上げられた題材であり、作詞家・星梨津子と作曲家・佐井孝彰の二人で「言葉と音」を大切に編んだ作品である。また、星梨津子と佐井孝彰の作品「小さな鳥の小さな夢」という楽曲は、「心をこめて表現しよう」という題材で小学校5年生の教科書にも掲載されている。

本題材は、雄大な空に向かって心を広げると、空の青さや雲の白さが自分に勇気を与えてくれるという、大きな生き方を示唆してくれる内容の歌詞であり、あこがれをもって豊かに表現することができる。また、言葉の自然なまとまりを生かして作曲されており、言葉を大切にしながら歌唱表現を工夫することができる。特に「おもいきり」「まっすぐに」「そっと」などの語感には旋律に注意深く反映されているので、思いや意図をもって表現を工夫することができる。そして、すべての強弱記号が歌詞の意味・内容や語感と密接に結びついているので、強弱記号を手がかりにしながら音楽をどのように表現していけばよいかを考えることができる。

第1時では、正確な音程とリズムで歌えるようにする。八分休符を意識させながら歌わせたい。また、なぜここに八分音符があるのかを考えさせながら取り組ませたい。休符を意識しながら音読したり歌ったりすることにより、言葉のまとまりを感じ取らせたい。

第2時では、強弱を意識させ、その表現を考えさせたい。なぜこの言葉にこの強弱記号が付いているのか、その場面をどのように歌えば良いのかを話し合わせより美しい表現に繋げていきたい。

3 題材の目標

歌詞と旋律の関わりに注目し、表現を工夫して歌おう

4 評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 |
|---|---|---|
| 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 | 言葉のまとまりと旋律の音の動き、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 | 歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。 |

5 研究の視点について

【視点2】

小中連携を関連させた題材構成(指導計画)

小学校では、歌う前に歌詞を読んで様子を思い浮かべたり、場面の様子に合うように歌ったりしながら、歌詞を大切に歌ってきている。小学校1年生の時から「思いをもって歌うこと」を指導することになっている。

中学校では、「詩の内容と曲想との関わり」「歌詞と旋律の関わり」そして「歌詞の抑揚を生かす」というように学年により「歌詞と音楽」を関連づけながら表現の工夫を発展させてきている。中学校3年生では「曲にふさわしい表現を工夫すること」が指導事項としてある。表現の工夫をするためには、前提として思いや意図をもつことが重要であると考えられる。

小学校1年生の教科書で扱われる「はるなつあきふゆ」で使われている言葉「ゆるる」「ふわり」「おおきな」「ざぶんと」「きらきら」「ちょろり」「いそいで」「ちいさな」「ひかる」「つめたい」は、どれも連想しやすくイメージがもちやすい。言葉から音楽へとイメージを膨らませながら思いをもって歌うことができる。

本題材の「メッセージ」は「言葉と音楽」を関連させながら考えることができる教材である。特に歌詞中の「おもいっきり」「まっすぐ」「そっと」という言葉は、旋律に反映していて、言葉からどのように歌えばいいか、生徒が考えやすく、思いや意図をもって表現を工夫することに適した楽曲だと考える。また、小学校からの発展として、歌詞だけでなく、強弱や旋律、音の高低、リズムの変化、和音の重なり、作曲者の思いを考えながら表現を工夫するところまで発展させていきたい。

子どもたちの表現力を伸ばしていくためには、小中の学習指導要領や教科書から題材や学習内容の関連性を確認することが重要であろう。そして、中学校としては子どもたちが小学校で何をどのように学んできているのかを知り、小学校での学習を土台として、さらに発展させていくという意識をもつことが大切である。

授業では、歌詞から連想されるイメージをふくらませるとともに、強弱や音の高低、リズム、和音などが生み出す曲想の変化を味わいながら、歌詞と旋律の関わりに注目させていく。「言葉と音楽」を大切に一人一人自分の考えから創意工夫して主体的に表現能力を高めさせたい。

| | 学習指導要領 A表現 (1)歌唱の活動 |
|-------------------|---|
| 小学校 第1学年及び第2学年 | イ歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。 |
| 小学校 第3学年及び第4学年 | イ歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。 |
| 小学校 第5学年及び第6学年 | イ歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。 |
| 中学校 第1学年 | ア歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。 |
| 中学校 第2学年及び第3学年 | ア歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。 |

6 題材の指導計画及び評価計画(2時間計画)

| 時 | 学習内容 ・主な学習活動 | 評価規準 |
|-----|---|---|
| ねらい | 歌詞の内容や曲想をつかみ、旋律を歌えるようにする | |
| 第一時 | <p>歌詞の内容や曲想に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模唱を聴いたあと、各パートに分かれて音とリズムを確認する。 ・ハーモニーを確認する。 ・音とリズムを確認しながらクラス全体で合わせて歌う。「おもいきり」「まっすぐに」「そっと」など、言葉のもつリズムや抑揚が旋律に活かされていることを確認し、休符から言葉のまとまりを意識する。 ・歌詞を音読する。 言葉のまとまりと旋律の音の動きを意識しながら歌う。 ・言葉を意識して歌う。 | <p>歌詞の内容や曲想に関心を持ち、主体的に歌唱活動に取り組もうとしている。</p> <p>(音楽への関心・意欲・態度)</p> <p>歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発声、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。</p> <p>(音楽表現の技能)</p> |
| ねらい | 歌詞と旋律の関わりに注目し、表現を工夫して歌う | |
| 第二時 | <p>言葉のまとまりと旋律の音の動きを確認しながら歌う。</p> <p>歌詞からイメージを膨らませる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜に付けられた強弱記号などから、作曲者の思いや意図についてイメージしたことをワークシートに記入する。 各パートで意見交流しながら、どんな歌い方をすればよいか工夫する。 ・強弱記号や音型、音の重なりを意識するとともに、「おもいきり」「まっすぐに」「そっと」などの語感を生かしながら曲にふさわしい音楽表現を各パートで考え練習する。 各パートで意見をまとめて意見と歌を発表する。 ・どのように歌うかについて意識するポイントをパートごとに拡大楽譜にまとめ、発表する。 ・「おもいきり」「まっすぐに」「そっと」のそれぞれの言葉について部分的に発表する。 <p>歌詞の内容や曲想、言葉のまとまりや語感、強弱を意識してクラス全体で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点をまとめながら合唱をする。 | <p>言葉のまとまりと旋律の音の動き、強弱を知覚し、それらの働きがみ出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫)</p> <p>歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発声、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。</p> <p>(音楽表現の技能)</p> |

7 本時の学習(2 / 2)

(1)目標

歌詞と旋律の関わりに注目し、表現を工夫して歌うことができる

(2)展開

| 学習内容と学習活動 | 教師のかかわり 評価規準 評価方法 |
|---|---|
| <p>1「夢の世界を」一番のみを歌う。</p> <p>2「メッセージ」を歌う。</p> <p>3前時に録音した「メッセージ」を聴く</p> <p>4本時の目標をつかむ。</p> | <p>学習の雰囲気をつくる。</p> <p>伸びやかな声が出るよう支援する。</p> <p>前時の学習内容を思い出し、言葉のもつリズムやまとまり、休符や音の動きを意識しながら歌うよう助言する。</p> <p>言葉が伝わってくるか、作者の思いが伝わってくるか意識させる。</p> <p>なぜこの目標を行うのかを考えさせる。この作詞者と作曲者のペアは「言葉と音」を大切に考えるペアであることを伝える。</p> |
| <p>歌詞と旋律の関わりに注目し、表現を工夫して歌おう</p> | |
| <p>5「おもいきり」「まっすぐに」「そっと」の部分をどのように歌えばよいか考え、ワークシートに記入する。</p> <p>6「おもいきり」「まっすぐに」「そっと」の部分について表現の工夫をする。個々に考えた意見をパート内で話し合い意見交流し、練習する。</p> <p>7パートごとに発表する</p> | <p>表現を工夫するとはどのようなことなのか考えさせる。また、具体的に何をすれば曲がよりふさわしい表現になるのかを考えさせる。</p> <p>作者の思いや意図を歌詞や旋律から想像させ、個々に工夫を考えさせる。</p> <p>パートごとに拡大楽譜に書き込ませ、視覚的にとらえさせる</p> <p>拡大楽譜に示した表現の工夫を全体に伝え、意見を共有させる。</p> <p>「おもいきり」という言葉はどのようにう歌えば作者の思いが伝わるのか助言する。旋律が上行し、「そら」へ向かっていることに気づかせる。mfであることを気づかせる。斉唱であることを気づかせる。</p> <p>「まっすぐに」という言葉は3回あることに気づかせる。3回目に向けて旋律がどのようなになっているのかを考えさせる。3回目の「まっすぐに」のみリズムが違うことに気づかせる。</p> <p>「そっと」という言葉が2回続くことに気づかせる。旋律がどのような形になっているのかを考えさせる。3連符の効果を考えさせる。斉唱であること</p> |

8 歌詞の内容や曲想、言葉のまとまりや語感、強弱を意識してクラス全体で合唱する。

9 録音する。

10録音した音源を聴き、学習内容を振り返る。

に気づかせる

言葉のまとまりと旋律の音の動き、強弱を知覚しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

(音楽表現の創意工夫)

クラス合唱用の拡大楽譜を用い、各パートで出た意見を集約しながら、クラス合唱を作り上げていく。それぞれのパートで出た良い意見をまとめていく。

録音した音源の違いを聴きあい、表現を工夫することで表現力が高まることを理解させる。

歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発声呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。

(音楽表現の技能)